日旅連12支部連合会、26年度の事業計画

関西支部連合会

持続可能な取り組みを

金子博美会長

平素より関西支部連合会の活動に対しまして、日本旅行社員の皆さま、会員の皆さまにおかれましては、多大なるご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。

まずはじめに、昨年から度重なる天候不順や酷暑、そして本年に入り山陰エリアでの震災や日本海側を中心に豪雪に見舞われ、災害に対する危機感が高まりました。被災された方々へのお見舞いと、ご対応いただいた皆さまに感謝申し上げます。

世界に目を向けると、ロシアとウクライナの抗争、アメリカ合衆国のベネズエラ攻撃など落ち着く様相を見せず、日本と中国の対立関係の停滞も今しばらく続きそうな状況下であり、一日も早く人々が日常生活を取り戻されますようお祈り申し上げます。

さて、日本旅行におかれましては、昨年創業120周年を迎えられ、新たな中期経営計画への取り組み初年度としてさまざまなチャレンジに取り組まれることに敬意を表し、お客さまの多様なニーズをいち早く把握して多岐にわたるチャネルでの展開に期待しております。

昨年は、184日間にわたり開催されました「大阪・関西万博」を機会に関西方面にたくさんの方々が足を向けていただいたこと、長引く円安の影響によるインバウンドのお客さまの順調な増加により、京阪神を中心に関西は注目度が向上し、にぎわいを取り戻しました。課題であった地方分散も、プラスワントリップ誘客に取り組む各エリアの皆さまの努力で、新たな着地素材の構築と発信等、取り組みの効果も出始めました。お客さまの満足度向上を図る改革年になりました。国内の団体旅行も、リアルのコミュニケーションを取り戻すべく、徐々に戻りつつあります。

私は昨年、日本旅行事業としてイギリスで開催された商談会に参加いたしました。さらに拡大するインバウンドのお客さまの多様性に応えるべく、地域としての受け入れ体制を整えている最中です。日本に非常に興味や関心を持たれている欧米豪のお客さまは現実には総人口の数%しか日本に来られていない状況であります。今後は長期休暇も多く、家族で旅行をする機会も多いこの層を取り込むことがビジネスチャンスであると捉えることができます。

日本においても外資系を含むホテルにおいてはSDGsの取り組みが進んでおり、それは今や「当たり前」の対応として捉えられております。海外においてはサービス業の地位も高く、憧れの産業になっている様子です。日本における旅館とは歴史や背景も違いますがわれわれもサービスの在り方について、新たな考え方として模索してまいりたいと考えます。

関西支部連合会では昨年、連合会主催の商談会を開催場所やターゲットを一考しながら新たな形で開催し、提携販売への施策、人材不足に対する情報提供など新しい取り組みを継続して行いました。今年も事業を継続し、浸透させることが大切だと考えております。日本旅行社員とのセッションを増やす計画や人材確保の機会を増やす計画をしています。

スポーツ界において、アメリカ大リーグでは大谷選手や山本投手の活躍は目を見張り、バスケットの八村選手、河村選手、サッカーでは日本代表のほとんどの選手が欧米で活躍されていることは喜ばしいばかりです。また、日本では若き横綱の誕生など、明るく前向きになれるニュースに元気付けられました。本年は冬のオリンピック・パラリンピックをはじめ、WBC、サッカーワールドカップ、また名古屋にてアジア競技大会が32年ぶりに日本で開催されるなど、日本人のますますの活躍が期待され、ひいては「日本」の魅力がさらに発信されることでしょう。そのような勢いを商売にもつなげて、目的地に私どもが選ばれるよう知恵を絞り行動を起こしてまいりたい所存です。

本年のトピックになりますが、島根を舞台にした朝の連続テレビドラマ、滋賀・奈良をはじめ関西を舞台とする長編ドラマも放映されることもあり、地方分散の働きかけにもつなげたいところです。

引き続き広域に誘導できるような提案として関西の魅力を積極的に発信することで、質の高いサービスの提供など、関西のブランド力に磨きをかけていきましょう。

日本旅行、日旅連会員の皆さま、さらに前向きに、将来に向けて持続可能な事業を行い、お互いが高められるよう取り組んでまいりましょう。

四国支部連合会

ブランド価値を高める

漆原康博会長

平素より日本旅行協定旅館ホテル連盟四国支部連合会の活動に対しまして日本旅行グループの社員各位の皆さま、会員の皆さまにおかれましては多大なるご支援・ご協力賜り、心よりお礼申し上げます。

2025年度は四国各県の4空港に東アジアからの直行便の就航により訪日外国人観光客の需要の拡大があり、また香川県は四国最大のアリーナのオープン、瀬戸内国際芸術祭2025の開催、高知県はNHKの朝ドラ「あんぱん」の放映、愛媛県は道後温泉本館全面再開1周年、徳島県は万博+もう1泊とイベント等が多い1年となりました。

本年は大きなイベントが四国にはなく、一つずつ丁寧に積み上げていこうと思っております。四国支部連合会および各支部では、旅行業界の新たな展開に対応するための取り組みを一層強化してまいります。特に、JR西日本の旅行サービス「tabiwa」での販売強化を重点事業とし、JR西日本の決済サービス「WESMO!（ウェスモ）」の加盟を推進し、会員施設の販売機会拡大を図ります。

また、日本旅行が展開する人気商品「赤い風船」や「レッドバルーン」商品への積極的な参画を呼びかけ、より多くの旅館・ホテルが連携できる体制を整えてまいります。

地域キャンペーンの展開については、四国各県がもともと高い協調性を持っているという特長を生かし、「連泊キャンペーン」の実施を検討し、各県に1泊ずつ宿泊することで、四国全体の魅力を体感いただけるような旅を計画しています。特にJRを活用した移動型旅行の普及促進に努め、これにより、地域間の相互送客と滞在型観光の拡大を目指してまいります。

さらに、特別企画商品としては、四国支部連合会独自のWEB商品を計画しております。デジタルを活用した新たな販売手法により、利用者にとって魅力的で利便性の高い宿泊体験を提供いたします。

また、訪日旅行の販売拡大を見据え、四国ならではの文化・自然・食をテーマとした旅行素材の開発・提供を進め、海外市場における四国のブランド価値向上にもインバウンド・グローバル事業本部と共同で取り組んでまいりたいです。

各種委員会活動では、法人向けには「四国ならではの素材」を取り入れた企画提案を行い、持続可能な観光モデルの実現を目指します。

個人旅行者に対しては、フォトスポット紹介やSNSを活用した集客施策を展開します。

訪日市場においては、特に欧米の旅行者に関心を持っていただけるような魅力発信や広報活動に注力いたします。

日本旅行に対しては、今現在、中国便の減便や運休が相次ぐ中、今後は新たな地域や国を対象とした共同での誘客活動の推進をお願い申し上げます。これまで培ってきた連携の力を生かし、広域的な観光振興を共に進めていけることを期待しております。

最後に、会員の皆さまには、地域一体の観光推進という原点に立ち返り、品質の高いおもてなしと新たな挑戦に積極的に取り組んでいただきたいと願っております。連合会と共に力を合わせ、四国ブランドの価値をさらに高めていく1年としてまいります。

九州支部連合会

新規コンテンツを開拓

伊藤博太会長

平素は日旅連九州支部連合会の活動につきまして、日本旅行グループの皆さま、ならびに会員の皆さまより多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度は、日本旅行グループが掲げる「中期経営計画2026−2030　新章」がスタートする年にあたり、私たち九州支部連合会においても、この新中期経営計画に密接にリンクし、日本旅行の各部門やNic九州との連携をこれまで以上に強化してまいります。九州の会員施設の宿泊顧客拡大に向け、一丸となって事業を推進してまいります。

九州には、雄大な自然や良質な温泉、豊かな食文化、そして歴史的建造物といった、世界に誇れる既存の魅力があふれています。今後はこれらに加え、持続可能な地域づくりを体感できる「新規着地コンテンツ」の開拓に注力いたします。単なる宿泊という枠を超え、その土地の物語を深く味わう「旅のストーリー性」を重視したオリジナルプログラムを提案し、九州観光の新たな付加価値を創造してまいります。

本年度の主要事業としては、7月から9月に開催される「熊本デスティネーションキャンペーン」を重点施策と位置づけます。キャンペーンをフックとした専用商品の造成に全面的に協力し、強力な集客展開を図ります。

また、昨年本格稼働したJR西日本「tabiwa トラベル事業」については、WESTER経済圏における九州への誘客拡大の絶好の機会と捉え、積極的な協力体制を構築してまいります。

拡大するインバウンド需要への対応も継続事業として取り組んでまいります。

「Red Balloon」の販売協力強化や、富裕層向けの高付加価値素材の開発、さらに「Miyab!」への素材提供などを通じ、多様なニーズに応えてまいります。併せて、九州独自のインセンティブ施策も提案し、海外から支持されるように九州の魅力を高めていく所存です。

九州全域に真の活気を取り戻し、世界から選ばれる「持続可能な観光地・九州」の確立を目指し、まい進してまいります。

本年度も日本旅行グループ並びに日旅連会員の皆さま方のより一層のご協力を、心よりお願い申し上げます。

沖縄支部連合会

「節目」の機会を生かす

親盛一功会長

平素は、日旅連沖縄支部連合会の活動に対し、皆さまから多大なるご協力を賜り深く感謝申し上げます。

2025年の沖縄観光は国内外からの需要が一段と高まる中で、県内初大型テーマパーク「ジャングリア沖縄」開業等もあり、沖縄への注目が集まりました。

また、沖縄観光入域者数は、1075万人（前年比11%増）となり、過去最高を記録しました。

さて、2026年は沖縄観光にとって重要な節目の年となります。秋には、県民の悲願であった「首里城正殿」が復元完成を迎えます。琉球の歴史とアイデンティティの象徴が蘇るこの機会を最大限に生かし、沖縄ブランドのさらなる向上につながると思われます。

米紙ニューヨーク・タイムズの「2026年に行くべき52カ所」にも沖縄が選ばれ、世界から注目されることが想定されます。

また、課題もあります。観光需要回復に向かう一方で、深刻な人材不足や観光業者の待遇改善も考えなければならない課題です。官民連携した解決の取り組みが早急に必要と考えます。

3月には、株式会社日本旅行さまの優良箇所および社員の皆さまを表彰する「日本旅行社長表彰・祝賀会」が、昨年に引き続き沖縄で開催されるということで今から楽しみにお待ちしています。

当連合会の取り組みとしては、ソリューション事業部門として、MICE・一般団体については沖縄赤い風船会（Nic）と連携した団体施策の実施で強化に取り組んでいます。

教育旅行団体の獲得拡大に向けてSDGsや探求型素材開発、営業担当者向け現地研修にも取り組んでまいります。また、発地へ誘客キャラバンも積極的に行ってまいります。

ツーリズム事業部門においては、商品造成と仕入部門の一体化運営による着地誘客の拡充。「赤い風船」商品を中心にインターネット商品のさらなる強化。着地素材の組み合わせ可能なバリューコネクトプランの新設定。店頭支店での沖縄プロモーションの実施など、WEB、リアル両面で取り組んでまいります。

インバウンドは、専用商品「Red Balloon」のさらなる強化・拡大に取り組みます。

さらに、株式会社日本旅行さまを通して各国で開催のイベント、商談会にも積極的に参加してまいります。

さまざまな取り組みで今まで以上に株式会社日本旅行さまと連携し貢献できるように会員一同鋭意努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

洲本温泉
うるおいの湯
淡路インターナショナルホテル
ザ・サンプラザ
〒656-0023
兵庫県洲本市小路谷1279-13
TEL 0799-23-1212
URL https://www.the-sunplaza.co.jp
E-mail info@the-sunplaza.co.jp

一茶のこみち 美湯の宿
〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉
https://yudanakaview.co.jp / TEL:0269-33-4126

世界遺産
「明治日本の産業革命遺産」

毛利三六万石の城下町、長州・萩。
萩城からほど近い、かつて城を守る重臣たちが居を構えた萩城三の丸、毛利屋敷跡に、北門屋敷はあります。
江戸時代からほとんど変わらない町割りと、維新前夜の面影が色濃く残る場所。武家屋敷の風格と凛とした空気に、往時の息づかいが感じられます。
国の重要伝統的建造物群保存地区、そして世界遺産「萩城下町・旧上級武家地」であるこの場所に許された、唯一の旅館。
ようこそ北門屋敷へ。

世界遺産「萩城下町」の宿
萩城三の丸 北門屋敷
〒758−0057 山口県萩市掘内 210-12
TEL0838−22−7521　FAX0838−25−8144
http://www.hokumon.co.jp

日光に春の足音
春茂登ホテルグループ
http://www.hotel-harumoto.com/hhg/
日光観光のお手配は▶ 日光 おでかけサロン
TEL (0288)54-2700
栃木県知事登録旅行業第2-636
東照宮観光のご昼食に▶ レストラン しゃくなげ
ホテル清晃苑併設